

ヘッジ取引とユーロ

トランプ政権の政策の実行段階になってきて FED の金融政策だけでなく、市場の方向性も不明瞭になってきた。そのためポジションのマネージメントは複雑になってきた。

初期のトランプトレードでドルロングを構築した人の中ではヘッジ取引が増えてきた。例えば通貨オプションだ。単純なドルプットの買いからノックアウトオプションなど少し複雑なものまで様々な種類がある。

また金融商品のポートフォリオを組んでいる人は、それ自体がヘッジ機能を有するのと、短期で市場トレンドが変わるのでポートフォリオの変更には手を出し難い。それでも金（ゴールド）を増やしたり、債券や株に付随するドル為替を一部ヘッジするポートフォリオに変える人もいるだろう。

トランプ政権になり、地政学、経済、軍事など多方面での変化が短期間で起こり今後も予想されるので最近では市場も消化しきれないのが実情だろう。

例えばユーロだ。先日、ミュンヘン安全保障会議で欧州委員会の委員長は EU の財政ルールの上昇を提案した。EU 諸国の防衛費の大幅な増額のためだ。財政ルールとは累積債務を GDP の 60% 以内、財政赤字を GDP の 3% 以内に抑える規定だ。これはユーロ創設時にその価値を維持するために決められた「安定・成長協定」に基づくものだ。

このルールを一時的に上昇させる提案をした。ユーロ圏や EU に大きな衝撃が起こった場合、厳しい経済状況に対処するために一時的な上昇はしてもいいことになっている。25 年のユーロの歴史の中でそうした事態に陥ったのはコロナの蔓延した際の一度だけだ。今回はそうした歴史的な非常事態との認識だ。

本来ならユーロが大きく売られてもいいはずだ。しかしそうはならなかった。むしろユーロはこのところ堅調だ。なぜか。

一つにはドル売り圧力がかなりあることが考えられる。ドルに次ぐ流動性を持つユーロはドル売りの最大の受け皿だ。それでユーロ売りが相殺された可能性だ。もう一つはフランスのマクロン大統領が言うように EU の現行の財政ルールは時代遅れになった。それで有効性を失ったのかもしれない。

ちなみに現在フランス、イタリアなど 8 か国が財政赤字の規定を逸脱しており規定以内に抑えるプロセスの最中にある。

また世界では多くの国で債務問題を抱えている。その中で EU の財政問題が相対化され重要度が低下しているのかもしれない。

ただそうは言ってもユーロは消化不良の市場の中で時限爆弾を抱えているようなものだ。